



富士橋・親柱②

かけはし

第188号
2023年11月発行

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町蹴沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。
<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



早川町教育委員会

目次:

ことぶき勸学院祭 4年ぶり開催	1
思春期体験学習 峡南地域各中学校	2 3
湯之奥金山博物館 『砂金掘り大会』 千の風朗読会 アルカディアフェスタ	4
2023	



ことぶき勸学院祭四年ぶり開催！

一〇月三〇日(月)、甲府市総合市民会館芸術ホールにおいて、県内六教室の一・二年生、約二五〇名が一堂に会し、第三七回ことぶき勸学院祭が四年ぶりに開催されました。踊りや歌を初め、和太鼓演奏、創作プチミュージカル、コーラス、フラダンス、トーンチャイム演奏、朗読劇など、各教室とも趣向を凝らした内容となっており、多くの観客を前に、日頃の練習の成果を披露しました。

一年生
和太鼓演奏 『かがり火太鼓』
踊り 『長生きサンバ』

峡南教室一年生がトッパッターを務めました。阪本学級長による、「団結！がんばろう！」で会場全体を巻き込み、スタートにふさわしい盛り上がりを見せました。毎週集まって練習を積み重ねてきた『かがり火太鼓』で



そ~れ!!

は、バチに装飾を施し、かがり火に見立て、迫力ある圧巻の演奏を披露しました。また、峡南教室伝統の『長生きサンバ』では、会場からの手拍子にも後押しされ、年齢を感じさせない軽やかなステップで観衆を魅了しました。長い時間かけて練習してきた成果が十分に発揮され、演技終了後の生徒の皆さんの達成感に満ちた表情が印象的でした。



VIVA!!

二年生の朗読劇では、沖縄戦を題材とし取り上げ、生徒一人一人が実体験を語り、詩『今、平和は問いかける』を朗読し、そして『島唄』の合唱を行いました。高野先生・中先生のご指導のもと、熱心に取り組んだ成果が表れ、今回の勸学院祭の中で、一番メッセージ性のある内容となっており「平和とは何か」を改めて考えさせられる内容となりました。

二年生
朗読劇
『つなぐ！七八年前の思いを』
歌『島唄』



♪島唄よ風に乗りに～

今年度のことぶき勸学院祭のテーマは、峡南教室二年生、原美紀子さんの『みんなが主役 勸学院』が選ばれました。開会式において、ことぶき勸学院副学院長より、表彰状が手渡されました。
*テーマに込めた思い
何事においてもお互い助け合えば皆が主役になれる。心をポジティブにして、一人一人みんなが主役になって欲しい。
*選ばれての感想
教室に入って「おはようの前に原さんおめでとうございます」と声をかけられ「？」「何？」「聞いてびっくり！ものすごく嬉しい気持ちが入りました。」

ことぶき勸学院祭テーマ
『みんなが主役 勸学院』



11月に入っても、全国的に真夏を記録したところがあり、山梨県でも夏を記録するなど、暖かい(暑い?)日が多く、やっと今になって冬らしい気候になってきたと思っていたら、今年も残すところ5週間程となってしまいました。昨年までは、コロナ対策中心でしたが、今年はインフルエンザも猛威を振るっているようです。年末に向けて体調には十分注意をしてお過ごしください。



峡南地域中学校

思春期体験学習



峡南地域では、平成一一年度より町や県保健福祉事務所の保健師さん、助産師さんが中心となり、思春期体験学習が各中学校において三年生を対象に行われています。この学習の目的は、乳児とのふれあいや講義、妊婦体験等を通して『生命誕生の奇跡』『命の大切さ』『妊娠・出産・育児』について学ぶことです。

今年度は、六月から一月にかけて行われ、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの蔓延状況によって体験内容に違いはありましたが、より良い学習の機会となるよう各校で工夫を凝らしながら実施されました。

生徒たちは、一つ一つの学習や体験活動に仲間と協力しながら真剣に取り組めました。各校生徒の感想を紹介します。

生徒の感想

市川中学校

○(自分が自分として生まれてくる確率が)二五〇兆分の一の奇跡的な確率です。すごいなと思った。



市川三郷町の様子や保健師の仕事、生命の始まりから誕生、いのちについてなど、様々なことを学びました。

○赤ちゃんは思ったよりも繊細で、よく気をつけないと赤ちゃんが危ないので、もつこのような経験を積み、安心して赤ちゃんに接することができるようにになりたい。

三珠中学校

○赤ちゃんの生まれたての重さや大きさがわかった。特殊な服やおむつを替えるだけでも細心の注意を払ってやらなければいけないことが本当に大切だとわかった。



赤ちゃんに接するとき、細心の注意を払うことや、声をかけながら行うことが大切です。



赤ちゃんの抱っこの仕方や、おむつの替え方にもコツがあります。

○とても重くて動きづらくて妊婦さんは大変なんだと改めて感じた。お母さんが頑張ってくれたおかげで今の私がいるんだなと思った。もし周りで妊婦さんを見つけたら自分にできることを率先して行い、少しでも役に立ちたい。



妊婦体験！起き上がるのもひと苦労です。

市川南中学校

○妊婦さんは、とても大変ということが分かった。私は、男なのでお腹に赤ちゃんができることはないが、将来の結婚相手に尽くしてあげようと心から思った。

○いつもの体重にプラス一〇kgされると思うと大変だと思ったし、痛みもあると思うと妊婦さんはすごいなと思った。



将来のイクメン&ママ友

○(妊婦さんは)一つ一つの動作に時間がかかることがわかった。今日よりもお腹が大きくなったら立ち上がるのに手助けが必要だと思った。

○お母さんは昔、いつもこんなにつらい思いをしていたのかと思うと、とてもありがたいと思った。

六郷中学校

○妊婦さんはお腹が重たいとは聞いてたけれど、今回体験してみても想像していた何倍も重くてびっくりしました。短時間でも体が痛くなったのに妊婦さんはあの辛さを一〇ヶ月以上抱えていると思うと世の妊婦さんはすごいなと思いました。

○おむつ替えはもう少し簡単だと思っていたが、いざやってみると難しく大変だった。また、赤ちゃんは体が弱いのので優しくすることが大切だとわかった。子供ができて嬉しいことがたくさんあるけれど、大変なこともたくさんあるんだとわかった。



将来のために、男子も女子も、真剣な表情でオムツ替えの練習をしました。

増穂中学校

○妊婦さんはいつもお腹に重い赤ちゃんを入れて過ごしているから、とても大変だと思った。自分は男だから出産して痛みを味わうことはできないけど、家事をやって将来の奥さんを楽にさせたいと思った。

妊婦さんのお腹を触らせていただきました。



○赤ちゃんは、とても繊細だったから扱いが難しかったです。私は、頭の支え方がとても不安になりました。おむつの替え方も一人では大変でした。私の子どもを産む頃には全部完璧にできるようなっていいと思います。



安定した抱っこで赤ちゃんも大あくび

早川中学校

妊婦さんの体験は、想像以上に大変



○授業を受けて一番に残ったことは、赤ちゃんの時から必死に生きようとしていたことです。命の神秘性を感じました。私の親は出産の痛みで「死」を覚悟したそうです。それでも私を産んでくれて愛を感じました。

○体験を経て、赤ちゃんは生まれるために一生懸命頑張っていることを第一に感じました。自分も、お母さん、お父さん、そしてたくさんさんの大切な人々に会うためにそうやって生まれて今ここに居ると思うと、生きていることがどんなにすごいことか分かる気がします。

福田先生による「いのち」の授業



○ぼくは体験を通して、赤ちゃんが生まれてくるときに工夫していることや、妊婦さんの大変さが分かりました。実際に

赤ちゃんを見て、繊細なこと、人見知りなど、ふれあう事で知ることがたくさんありました。



人見知りの赤ちゃんに四苦八苦

諏沢中学校

○興味深い体験ばかりで楽しかった。特に赤ちゃん抱っここの体験は初めてだったので良い経験になった。



妊婦さんに、たくさん質問をしました。

慎重に慎重に、膝の上で赤ちゃんをあやします。



南部中学校

○赤ちゃんや妊婦さんについて知れてよかったです。オムツを替えることは大人になるまでないかも知れない。いけど、今日のことを思い出したい。

○「いのち」は長い年月をかけて、たくさんの人に支えられてできるのだと知ったし、ひとつひとつの命が愛されて今も存在しているのだと感じました。私自身も

手ほどきを受けながらオムツを替えます。



○自分が生まれて今こうして生きていることの素晴らしさ」「自分のことを大切に思い、見守ってくれている人がいつも側にいることのありがたさ」「将来、自分はこの親になりたい」という思い...この思春期体験学習を通して生徒の皆さんは数多くのことに気づき、そして学んだことと思います。自分や周りの人を大切にできる気持ちを持ち続けてもらえたらと思います。



足元、お腹に気を使い階段を降ります。

「自分が生まれて今こうして生きていることの素晴らしさ」「自分のことを大切に思い、見守ってくれている人がいつも側にいることのありがたさ」「将来、自分はこの親になりたい」という思い...この思春期体験学習を通して生徒の皆さんは数多くのことに気づき、そして学んだことと思います。自分や周りの人を大切にできる気持ちを持ち続けてもらえたらと思います。

湯之奥金山博物館夏休みプログラム 『砂金掘り大会』

身延町の湯之奥金山博物館では、二〇二三夏休みプログラムの一環として七月二十九日と三〇日の二日間わたって「砂金掘り大会」を開催しました。初日は一般の部が、二日目は「砂金甲子園」と題して学校対抗の部が行われ、東は東京都や千葉県、西は兵庫県の中高一貫校、一一校が参加して砂金掘りを競いました。

競技方法は、あらかじめ砂金の入った乾いた砂がバケツいっぱいに入れられており、これを水の中で専用の皿に移し替えて振るいながら金を採る「パンニング」するというものです。砂金甲子園では、一五個のバケツを一五人がリレー形式でパンニングする団体戦と、各校で選ばれた五人の選手がパンニングする個人戦が行われました。ほとんどどの学校が理系の部活動単位でエントリーしており、この大会のために放課後の部活動の時間に緻密な作戦を立て、練習を積んできたというチームばかりでした。戦いは終始白熱したものととなり、大きな応援の声と共に会場は大変盛り上がりしました。



採った金の個数とタイムを総合的に判断して順位が決めます。

れていきました。今年は兵庫県の灘校が見事優勝しました。今年で一般の部は二三回、学校対抗の部は二〇回を数える伝統ある大会となりました。今後も峡南地域の特色ある観光・教育施設を舞台とした全国的な行事としてさらに盛り上がっていくことと思います。

朗読ボランティア「千の風」 特別講演会と朗読のひととき

朗読を通して平和の大切さと命の重さを伝えていく、身延町立図書館朗読ボランティア「千の風」の特別講演会と朗読会が七月三十日(日)に身延町総合文化会館で行われました。

今年「千の風」の活動が始まって二十五周年にあたる節目ということで、会をはじめにこの二十五周年の活動のあゆみが紹介されました。また、「千の風」と縁の深い富士川町在住の作家、江宮隆之さんから二十五周年記念によせて挨拶がありました。

「朗読の部」では、この日の記念講演に招かれた、作家であり戦没画学生慰霊美術館「無言館」館長の窪島誠一郎氏の作品が朗読されました。身延小学校五年生、



小学生2人による朗読

が「わたしたちの『無言館』を、千の風」メンバーの望月佐津喜さん、川崎三重子さん、手塚恭子さんが「戦没画学生『祈りの絵』を、同メ

ンバーの遠藤文子さんが「無言館」ものがたり」を読み上げました。いずれの作品からも、平和の大切さ、命の尊さが伝わってくる力強い朗読となりました。「講演の部」では、「無言館のこと」――戦没画学生が伝えるもの」と題して、窪島誠一郎氏による記念講演が行われました。画家を目指した多くの若者たちが、志半ばで戦死しました。彼らが今の時代を生きていたら、何を私たちに伝えたかったのでしょうか？ロシアとウクライナの戦いが長引き、多くの人々が犠牲になっている惨状に、何を訴えるのでしょうか？そんな戦没画学生の心の声を現代に伝える無言館の役割についてお話を聴くことができました。会場にいる全員で命の尊さ、平和の大切さをあらためて考える機会となりました。

アルカディアフェスタ2023

一〇月一五日(日)アルカディア南部総合公園多目的広場において、県内外から多数の参加者を迎え、「きたえよう心と体、広げよう笑顔の輪」というスローガンのもと、多世代の方々が一緒に楽しめるイベント「アルカディアフェスタ2023」が開催されました。スポーツ、文化をテーマにした各種アトラクション

雨上がりの澄んだ青空のもと、南部町の伝統である白鳥太鼓の演奏に始まり、元日本代表の坪井慶介さん・鈴木啓太さんをゲストに迎えたサッカー教室、地元南部町出身の大道芸人「わっしょいゆ〜たさん」の出演も、南部町にゆかりのあるクイズを解きながらすすむ巨大迷路やジャングルジップライン、ウルフコンボ、変形自転車、インモーション、ストラックアウト、フライングディスクターゲット、輪投げ等、趣向を凝らしたアトラクションが様々あり、来場者の方々は笑顔で一日を過ごしていました。

※アルカディア南部総合公園内の施設は、文化館スポーツセンター・テニスコート・野球場・運動場に加えて、令和四年六月に多目的広場が新設されました。天然芝の広大なグリーンと眼前に広がる山々の壮麗な景色のコントラストは圧巻です。

※アルカディアとは…ギリシャ語で牧歌的な理想郷のことです。



大型カルタ大会



わっしょいゆ〜たさん



サッカー教室